

音楽科学習指導研究委員会

一 研究テーマ

「思いや意図」をもって、意欲的に表現する子どもを求めて

二 テーマ設定の理由

本委員会では、上記テーマを継続的に掲げ実践を積み重ねてきた。昨年度の教育課程研究協議会の「登場人物の心情を考えて楽曲を味わおう」の授業実践を通して、分かってきたこととして、次のことが挙げられる。

- ① 鑑賞と表現活動を関連させた授業実践であり、感受したことを言語化するだけにとどまらない効果が見られた。特に、楽曲の物語性や台詞から登場人物の心情にせまって朗読劇に表現する活動においては、生徒が登場人物の心情にせまって、強弱や音色、音の高低といった音楽的な要素につながる工夫をもって朗読をしている姿があった。
- ② 上の①では、本研究委員会のテーマ「『思いや意図』をもって、意欲的に表現する子どもを求めて」が実現されていると考えられる。つまり、どのように登場人物の心情を表そうかという「思いや意図」をもち朗読劇を行い、音楽の諸要素に結びつく表現を聴きとる力が高まったと考える。
- ③ 鑑賞題材と表現活動のかかわりや、展開の工夫について、参観者が自身の取り組みと比べながら学ぶことができた。
- ④ 鑑賞題材での評価について、朗読劇を取り入れたことが、心情を表す音楽の工夫を予想することとなり、そのまま鑑賞の視点として生かされて評価につながっていた。

同様に昨年度の教育課程研究協議会の研究協議Ⅱと、音楽同好会との共催の音楽科指導研修会から分かってきたこととして、次のことが挙げられる。

- ① 第四中学校の授業実践で記述された生徒の学習カードをもとに、評価のあり方を参加者で考え合う機会が有意義であった。特に、生徒の記述を音楽から知覚した内容と感受した内容に整理してとらえたり、次時への意識付けに生かす手立てとして考えたりできたことが、参加者にとって自らの授業改善につながるものとなった。
- ② 音楽同好会と共催した音楽科授業研修会では、実践発表のほかに、ICT機器を実際に用意して操作方法を確認するなどできた。オンラインによる研修が多くを占める中で、chromebookの活用方法を対面で学ぶ機会が必要なことがわかった。

以上の授業実践等のふりかえりをふまえ、「主体的、対話的で深い学び」を音楽科でどのように実践していくか、コロナ禍を経て変化してきた学校環境と特に影響の大きかった歌唱活動をどのように再構築していくかについて、さらに研究を深めていき、今後、本委員会から発信していきたい。

三 研究の経過

第1回	5月 2日	第1回委員会	総委員会	研究のテーマ設定・計画の立案（於：教育会館）
第2回	6月15日	第2回委員会		事前研究授業参観（於：川辺小学校）
第3回	8月18日	音楽科授業研修会	（音楽同好会と共催	於：川辺小学校）
第4回	9月 6日	教育課程研究協議会		（於：川辺小学校）
第5回	11月27日	第5回委員会	総役員会	研究まとめについて（於：教育会館）
第6回	2月 2日	音楽科授業研修会		本年度のまとめ（音楽同好会と共催 於：清明小学校）

四 研究の内容

令和5年度 音楽科学習指導案	
日時	令和5年9月6日(水) 第2校時
題材名	『曲の気分を感じ取って楽しく歌おう』
授業会場	上田市立川辺小学校 体育館
授業学級	4学年の学級
指導者	長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課 義務教育指導係 指導主事
授業者	上田市立川辺小学校 教諭

I 研究テーマ

＜全校研究テーマ＞	
一人ひとりの子どもの「よさ」に目を向け、学びを深めていく授業 ～教師のまなざしに視点をあてて～	
＜音楽科研究テーマ＞	
楽曲への思いや願いをもって、生き生きと楽しみながら表現する子どもを育てるための 指導のあり方 ～歌唱表現の工夫を伝え合う活動を通して～	

II 研究内容

1 題材名 『曲の気分を感じ取って楽しく歌おう』（全5時）

教材名「子どもの世界」 日本語詞 小野崎 孝輔 作曲 リチャードシャーマン・ロバートシャーマン

2 題材設定の理由

本校には歌うことが好きな子どもたちが多く、以前から学校全体で積極的に歌唱に取り組む伝統があった。しかし何年にもわたるコロナ禍による歌唱活動の制限下で、大きな声で思い切り歌えずストレスを感じたり、歌うこと自体に消極的になってしまったりする子どもたちの姿に、心が痛む日々が続いた。コロナが収束に向かい始めた今こそ、歌うことを心から楽しむ、生き生きとした子どもたちの姿を取り戻したいと願い、音楽科研究テーマのもと研究を進めてきた。

これまでのコロナ禍での歌唱学習は、感染への配慮から、教師の願う歌唱表現を子どもたちに伝えて短時間で歌を作り上げていく、教師主導の学習形態になりがちであった。そのため子どもたちは、教師に言われた通りに歌えるようになったことに満足してしまい、自ら「こう歌いたい」という願いのもとに歌を作り上げていく経験が、ほとんどできていなかった。

4年1組は明るく活発で、素直に自己表現したり、のめりこんで歌ったりできる子どもたちが多く。友だちの歌を聴き、自然と拍手をする温かい雰囲気もある。

そんな子どもたちが、お気に入りの曲である【子どもの世界】の歌唱表現の学習を通し、本研究が願う、お互いの表現に対する思いや願いを伝え合いながら、楽しく生き生きと歌唱学習に取り組んでいく姿を期待し、本題材を設定した。

3 教材研究

- 前半（ア）＋後半（イ）の2部形式で、曲自体も短いため、無理なく歌える。
- 「聴きなじみがある」「リズムに乗りながら歌える」「身体表現を取り交ぜて歌唱表現ができる」「二つの旋律が重なり合った簡単な二部合唱を楽しめる」など、親しみを持って歌唱学習に取り組める要素が多い。
- 歌詞の内容から思い描く＜子どもの世界のイメージ＞が、発声、強弱、テンポ感、表情、身体 表現など、様々な音楽的要素と結びつきやすく、表現の工夫を楽しみながら歌うことができる。
- 後半の「すてきなせかい」を3回繰り返して歌うところは、フレーズごとに声量を変えて歌う工夫が考えられ、子どもたちが意見を出し合い、友だちと関わり合いながら試行錯誤して強弱記号を決め出していく学習場面を設定できる。

4 題材の目標

(1) 曲想と歌詞の内容、テンポ、旋律、強弱などとの関わりに気づき、それらを生かした明るい響きの発声で歌う技能を身につける。 (知識、技能)
(2) 曲想の変化を生かした歌い方を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図を持つ。 (思考力、判断力、表現力)
(3) 曲想表現の工夫をしながら歌う学習に、友だちと協働しながら主体的に取り組む。 (学びに向かう力、人間性等)

5 題材の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と歌詞の内容、テンポ、旋律、強弱などとの関わりに気づき、曲想の変化を生かしながら、明るく自然な響きの発声で歌う技能を身に付けて歌っている。 【演奏聴取】	曲想と歌詞の内容、テンポ、旋律、強弱などとの関わりに気づき、曲調にふさわしい歌い方を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図を持っている。 【行動観察 発言内容 ワークシート】	歌詞の内容と曲想の変化との関わりに興味を持ち、曲の特徴にふさわしい表現を工夫しながら歌う学習に、友だちと協働しながら主体的に取り組もうとしている。 【行動観察 発言内容 ワークシート】

6 題材の指導計画（5時間扱い）

時	学 習 内 容	知・技	思判表	学び
第1時	○模唱を聴き、旋律を覚えて歌う。 ○二部合唱に挑戦する。 ・低音部分の聴唱、パート練習 【演奏聴取】	○		
第2時	○曲名や歌詞の内容について考え、曲のイメージを持つ。 ・すてきな世界とはどんなところか。どんな場面を歌っているか。 ○「歌への願い」を持つ。 ・どんなイメージで歌いたいのか。どんな気持ちを伝えたいのか。 ○「歌への願い」を表現するための歌い方について、工夫できそうなことを考える。 ・曲想が伝わるような歌い方<表情・身体表現など> ・曲想に合った歌声 <発声の工夫> ・歌声の大きさの変化 <強弱の工夫> 【行動観察 発言内容 ワークシート】		○	○
第3時	○前時に考えた様々な歌い方の工夫を、みんなで試して歌ってみる。 <表情・身体表現・発声の工夫・強弱の工夫など> ○「すてきなせかい」のフレーズの3回のくりかえしについて、どのような強弱をつけていくか、それぞれに考える。 (p p p mp mf f ff) 【行動観察 発言内容 ワークシート】		○	○
第4時 本時	【グループ追究】（4グループ別） ○「すてきなせかい」の3回のフレーズのくりかえしについて、自分が考えた強弱表現と、そう考えた理由を発表し合う。 ○提案された様々な強弱表現を、みんなで試し歌う。 ○歌ったり、聴いたりした感想を発表し合い、グループとしての強弱表現を考える。 ○グループごとに発表し、感想やアドバイスを発表し合う。 ・その強弱表現に決めた理由について発表してから歌う。 ○本時の学習を通し、あらためて「自分としての強弱表現」を決め、ワークシートにまとめる。 【行動観察 発言内容 ワークシート】		○	○

第5時	○同じ強弱表現ごとにグループになり、二部合唱にして発表をする。 ○本題材を通しての感想をワークシートにまとめる。 【演奏聴取 行動観察 発言内容 ワークシート】	○	○	○
-----	--	---	---	---

7 本時案

(1) 主眼

「子どもの世界」の〈すてきなせかい〉を3回くり返す強弱表現を一人ひとり考えた子どもたちが、自分の考えを伝え合ったり、自分とは違う様々な表現方法を試し歌ったりする活動を通して、表現を追究することの楽しさを感じながら、生き生きと歌唱活動に取り組むことができる。

(2) 本時の位置 …題材展開参照（5時間扱い中第4時）

(3) 指導上の留意点

- ①強弱を意識して表現するための補助動作として、身振りをつけて歌唱するようにする。
- ②友だちの表現の工夫を共有できるように、ボードに貼る強弱記号のカードを準備しておく。

(4) 展 開

段階	学習活動	予想される児童の反応	◇教師の指導・援助 評価	時間
導 入	1 子どもの世界を二部合唱で歌う	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい声で笑顔で歌おう。 ・リズムに乗って元気に歌おう。 	◇わくわくハッピーな感じを伝えたいという「歌への願い」を思い返すよう声をかけ促す。	10
	2 本時の学習内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでみんなの強弱の工夫を歌ってみるんだな。 ・みんなはどんな工夫を考えているのか楽しみだ。 	◇学習のめあてを掲示し、強弱の工夫がよりわくわくハッピーな気持ちを聴いている人に伝えるための工夫であることを全体でおさえる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>【学習のめあて】 「子どもの世界」のわくわくハッピーな感じが伝わるように〈願い〉 〈すてきなせかい〉を3回くりかえすところの強弱を考えよう。〈工夫〉</p> </div>				
展 開	3 グループ学習 ◆自分の考えた強弱の工夫とその意図の発表 ◆様々な強弱の工夫の試し歌い ◆自分の新たな強弱表現の決め出し（学習カード記入）	<ul style="list-style-type: none"> ・ハッピーがだんだんふくらんでいく感じを出したいから、mf → f → f fにした。 ・最初の2回はmpにして最後をハッピー爆発でf fにした。・3回目のハッピーが目立つようにp → mf → f fにした。 ・この強弱は歌いやすいな。 ・自分の強弱の工夫はちょっと不自然な気がするな。 ・色々な強弱があって決められない。もう一回これとこれを歌ってみてもいい？ ・最初をPにすると小さすぎてハッピーじゃないから、mfから始まる強弱にしよう。 ・やっぱり自分が最初に考えた工夫が一番いい。 	◇それぞれ考えた強弱の工夫と、誰が考えた強弱なのかが分かる掲示を、あらかじめグループごとに用意しておく。 ◇リーダーが中心になり、一人ひとりどんな意図をもって強弱の工夫を考えたか発表し合い、グループで共有するよう指示する。 ◇迷いがある場合は、何度もグループで歌いなおして考えてよいことを伝える。 ◇最初と考えが変わった場合も考えが変わらなかった場合も、その理由を学習カードに書くよう指示する。	25

自分たちの歌への願いに向け、思いや意図を伝え合いながら強弱表現を追究する歌唱活動に、生き生きと取り組んでいるか。

- 自分の思いを伝えたり、友だちの考えに耳を傾けている姿から
- 様々な強弱表現の試し歌いに、積極的に取り組む姿から
- 願いによりふさわしい強弱表現を、真剣に考える姿から
- 歌に入り込んで、楽しく歌う姿から

4 本時の振り返り

◆自分の決めた強弱表現の発表

◆グループ練習を通しての感想発表

- ・みんなで試して歌ったら、自分の工夫は不自然なところがあったから、違う工夫にした。
- ・最初に考えた強弱の工夫が、歌ってみて一番ハッピーが伝わる感じがした。
- ・みんなと意見を出し合って、協力してグループ学習ができてよかった。
- ・色々な強弱の工夫が歌えておもしろかった。

◇自分で音楽表現を考えることができたことや、友だちと協力してグループ学習ができたことを評価する。

思いや意図をもって、自分の強弱表現を決めることができているか。

- ワークシートの記述から
- 発表の様子から

10

8 実証の観点

- (1) 「すてきなせかい」のフレーズのくり返しの部分を追究場面にしたことは、子どもたちが思いや意図をもって曲想表現を工夫していく学習に有効であったか。
- (2) 自分の表現への思いや意図を伝え合ったり、友だちの考えた様々な表現方法の良さを感じながら試し歌ったりする学習の場を設けたことは、表現を追究することの楽しさを感じながら、生き生きと歌唱活動に取り組む姿につながったか。

9 参会された先生方からのご意見 ※特に本研究のテーマにかかわる部分に下線を加えた

○追究場面について

- ・4年生の歌声が頭声発声が出来ていて素晴らしかったです。響きのついた無理のない発声の良さがわかっていて、表情も良かったです。子どもの世界のくり返しの部分を表現の工夫をするのは取り組みやすかったと思いました。強弱と表現の工夫をグループ内で発表することは、自分の考えをしっかりと持つことにつながったと思います。そして、その考えをみんなが尊重していたことが素晴らしかったです。
- ・一人一人の児童が自分なりのイメージ（思い、世界）をもち、柔軟な姿勢（友達の考え、表現方法を受け入れる）が素晴らしいと思いました。また、歌唱ですから、一つの表現に向かわせるかと思っていましたが、丸山先生の「自分の歌い方でいいから・・・」の一言、すごいなあと感じました。
- ・どの子も課題に向かい前向きに取り組んでいる姿が素晴らしかったです。グループ学習はとても有効なものであったと感じました。最初と違う意見を言う児童が多いことから、歌い考え合うことはとても良かったと思いました。
- ・強弱記号は一つの学びの過程の一つの方法として活用し、mpの表現できるもの（色・ことば・表情・大切さ・リズムに乗る・伝える一生懸命さ）などを創造的に表現につなげていけるといいなあと思いました。
- ・さっと歌える、自分の考えを言える、安心して授業に取り組んでいました。強弱を表現するのに、身

振りも入れて、違いを感じられるように工夫していました。どんな表現でも自分なりの考えを持って取り組めたらよしという普段からの先生の姿勢が感じられました。

- ・ 子どもたちがそれぞれにこだわりや根拠をもって表現をしている姿が素晴らしかったです。自分の表現と友達の表現の工夫のどちらも大切に、優劣をつけずに認め合っていく授業展開で個の表現を大切にしていた点が良かったです。 身体表現が強弱や気持ちの高まりと結びついており、表現や歌声に生かされていて良かったです。

○歌唱活動について

- ・ 子ども達が伸び伸びと歌を歌っていて、とても良いなあと思いました。
- ・ イメージの持ちやすい子どもにあった曲。音域的にも、音の動きもわかりやすく、子ども達が強弱表現にのせて歌い深めていました。mp そわそわした感じ。mf 楽しい感じとイメージと強弱を結びつけて歌っていました。色々な表現を歌い合うことで、自分の表現を深めていました。

○全体について

- ・ それぞれの子が、自分の思いを明確にもって、それを伝え歌うことができている素晴らしかったです。 グループでも、リーダーの子が中心となり、自分たちでどんどん歌ってみる。それも、強弱を意識して歌っている姿は、主体的に学びに向かっているのではないかと思います。 言葉のディスカッションは少なかったかもしれませんが、友達の考えを歌ってみることは、考えの広がりにつながっていたと思います。 対話的な学びだったと思います。
- ・ もっとシンプルだと予想しましたが、子どもたちが考える工夫は多様で、たくさんの考えや願いがつまっていました。 大人の予想をはるかに超える意図が出てきて驚きました。 丸山先生の細かい工夫や仕組み方でたくさんの意図を大切に共有し、考えることができた本時だったと思います。 どの意見も大切にされる学習でした。 先生が子どもたちと考えた強弱の身体表現がとても有効だと思います。

10 指導主事の先生からのご指導

○指導案の評価基準の書き方について

- ・ 『思考力・判断力・表現力等』の部分を書く上で、指導要領の〔共通事項〕「ア音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。」の部分を見るとよい。

○「思い」と「意図」との違いについて

- ・ 思い…こんな感じの音楽にしたい
- ・ 意図…そのために、どの音楽を形づくっている要素を操作するか

○「思考力・判断力・表現力等」を評価する上で、拠り所となる「主な音楽を形づくる要素」とは

- ・ 「音楽を特徴づけている要素」と「音楽の仕組み」である。「子どもの世界」で考えると、反復した旋律に気付くということが言える。これが評価基準に入るとよい。

○授業内容について

- ・ 一人ひとりの表現が保障されていた。
- ・ 次に歌の技能の学習に入ってしまった時、自分なりのその歌い方で本当に伝わるかの確認が必要。音楽的に不自然な表現は、子どもであっても学習していくうちに違和感を抱くこともある。

五 研究のまとめと課題

本委員会では本年度の実践を通して、下記のように研究を深めてきた。

川辺小学校の「曲の気分を感じ取って楽しく歌おう」の授業実践を通して、分かってきたこととしては、次のことが挙げられる。

- ①子どもたち一人ひとりが願いを持ち、歌唱表現を追究していく授業を行うことで、コロナ禍以前のようなのびやかな歌声を取り戻し、表現することの楽しさを子どもたちが感じる事ができた。子どもたち一人ひとりが思いや意図を持ち、こだわりを持って友と関わりながら追究する姿が見られた。
- ②楽曲のイメージの持たせ方について、一人ひとりの思いや願いを考えていく段階で、イメージが固定しないように、様々なイメージが膨らむような支援をしたい。
- ③グループ学習の持ち方について、さらに追究を深めるための進行の仕方や、友だちの表現を聞いた後、一人ひとりが自己の表現と向き合ったり、自由に試し歌いをしたりする時間の確保ができるようにしたい。
- ④子どもたちが考えた様々な曲想表現から音楽的要素を意識した表現へと発展させていくための支援について考えていきたい。

また、教育課程研究協議会の研究協議Ⅱや、音楽同好会との共催の音楽科授業研修会から分かってきたこととしては、次のことが挙げられる。

- ①川辺小学校が実践されていた活動では、思いや意図を持って意欲的に表現しようとする子どもの姿が見られた。そのような実際を実会場で参集して観ることができたことは、参加した教師の技能向上につながったと考えられる。また、「歌への願い」から生まれた歌い方表現の幅についても参加者同士で意見交換を行うことができ、授業改善につながるものとなった。
- ②音楽同好会と共催した音楽科授業研修会では、chromebookを使い音楽的な活動ができるサイトやソフトの紹介と実践が行われ、授業方法の提案や活用の仕方などを講師の先生に教授いただいたり、参加者同士で授業で用いるとしたらどんな活動ができそうかななどの意見交換をしたりすることができた。

上記のことを踏まえて、今年度の活動から子どもたちが「主体的、対話的で深い学び」が行えるようにこれまで積み重ねてきた実践とコロナ禍で得た知見や技術とをそれぞれ取り入れていけるか、思いや意図をもった活動を他にも行えないかについて、さらに研究を深めていき、今後、本委員会から発信していきたい。